令和元年度

「川でつなぐ交流促進事業」

報　告　書









北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

本事業は（一社）東北地域づくり協会の公益事業の支援により実施しています。

目　次

１．はじめに ---------- 1

２．実施概要 ---------- 2

（１）日程及び体制 ---------- 2

（２）航路 ---------- 2

（３）機材 ---------- 3

（４）行程 ---------- 4

（５）参加者 ---------- 6

３．実施状況 ---------- 8

（１）主な通過箇所 ---------- 8

（２）実施状況写真 ---------- 12

４．意見交換の内容 ---------- 17

（１）８月実施分の意見・感想など ---------- 17

（２）９月実施分の意見・感想など ---------- 18

（３）乗船レポート ---------- 19

５．調査を終えて（事務局のまとめ） ---------- 20

（１）流況 ---------- 20

（２）河川環境 ---------- 21

（３）川へのアクセス ---------- 21

（４）流域社会の川への関心 ---------- 22

（５）河川関係の市民団体の強化 ---------- 22

６．次年度以降の事業実施に向けた具体的な課題 ---------- 22

７．終わりに ---------- 23

■ 参考資料

実行委員会規約、実行委員会名簿、新聞掲載記事、北上川「川くだり支援まっぷ」

１．はじめに

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会では、北上川流域が育ててきた一体感や人のネットワークを活かした地域づくりを目指して活動しているが、舟を用いた流域内地域間の交流を一層促進するため「川でつなぐ交流促進事業」を令和元（2019）年度からスタートさせた。

本年度は、次年度以降に予定する本格実施に向けての準備期間と位置づけ、今後の交流促進事業の課題等を探ることを目的として、北上川の河川活動団体の協力を得ながら北上川の状況を把握するため、盛岡から石巻までの約 200 ㎞ の区間について試験的な舟下り運航を実施する。

これまでに行われた市民団体による組織的な北上川の川下りは、平成 9 年（1997）4 月から平成 11 年（1999）6 月に「北上川流域連携交流会」が 3 年以上をかけて実施した盛岡から東京までの内陸水路に沿っての水の旅「東日本水回廊構想・舟運可能性調査」、平成 15 年（2003）4 月から 5 月 10 日までの「ガイア展勝の会」・「北上川サポート協会」等が実施した、復元された平成のひらた舟「北上川連携号」による北上－石巻往復の運航、平成 22 年（2010）6 月に「北上川流域連携交流会」が企画した国土交通省河川調査船「ゆはず」による一ノ関－脇谷閘門区間の北上川観光調査等があるが、最近は広域的な活動が縮小すると共に、北上川の広域にわたる情報の把握には不安があり、本調査の知見が期待される。

なお、本事業は、北上市立博物館が企画する特別展「北上川舟運と海 －つなぐ、広がる、時代を超えて－」との連携事業である。

２．実施概要

（１）日程及び体制

日程及び体制は以下のとおりである。

日　程：　①　８月 24 日(土)　盛岡（南大橋）～花巻（花巻南大橋）
　　②　８月 25 日(日)　花巻（花巻南大橋）～北上（展勝地レストハウス）
　　③　９月 28 日(土)　北上（展勝地レストハウス）～平泉（高館橋）
　　④　９月 29 日(日)　一関（川崎防災ステーション）～石巻（脇谷閘門下流）※
　　※ 北上市立博物館主催行事「川から海へ！」と連携して実施

体制：　主　催：　北上川「流域圏」フォーラム実行委員会
　　協　賛：　（一社）東北地域づくり協会

実施にあたっては、北上川「流域圏」フォーラム実行委員会の事務局メンバーが実施体制を構成し、本部・陸上併走と川下り運航のそれぞれに責任者を配置して、携帯電話、GPS を使って相互の連絡を密にしながら行動した。

（２）航路

川下り調査の区間について、河川区分図及び縦断図に記すと以下のとおりとなる。

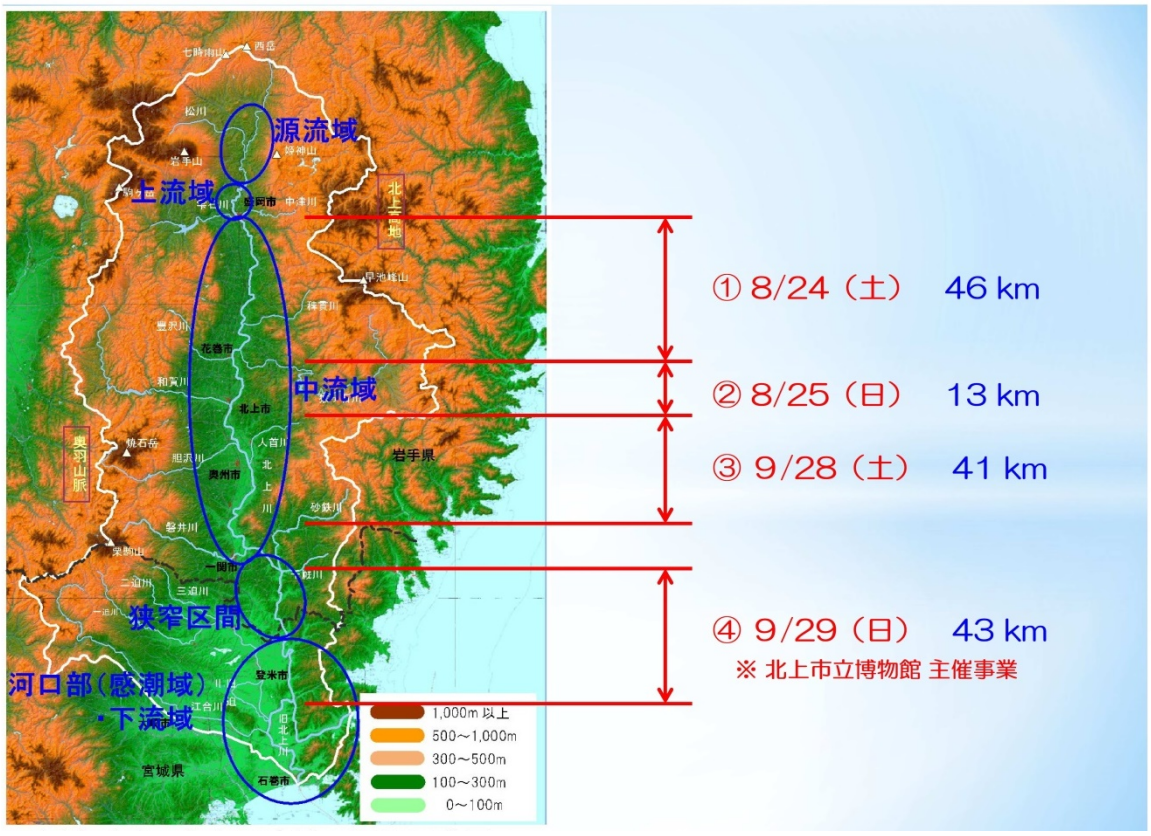


図１　川下り調査区間（河川区分図）

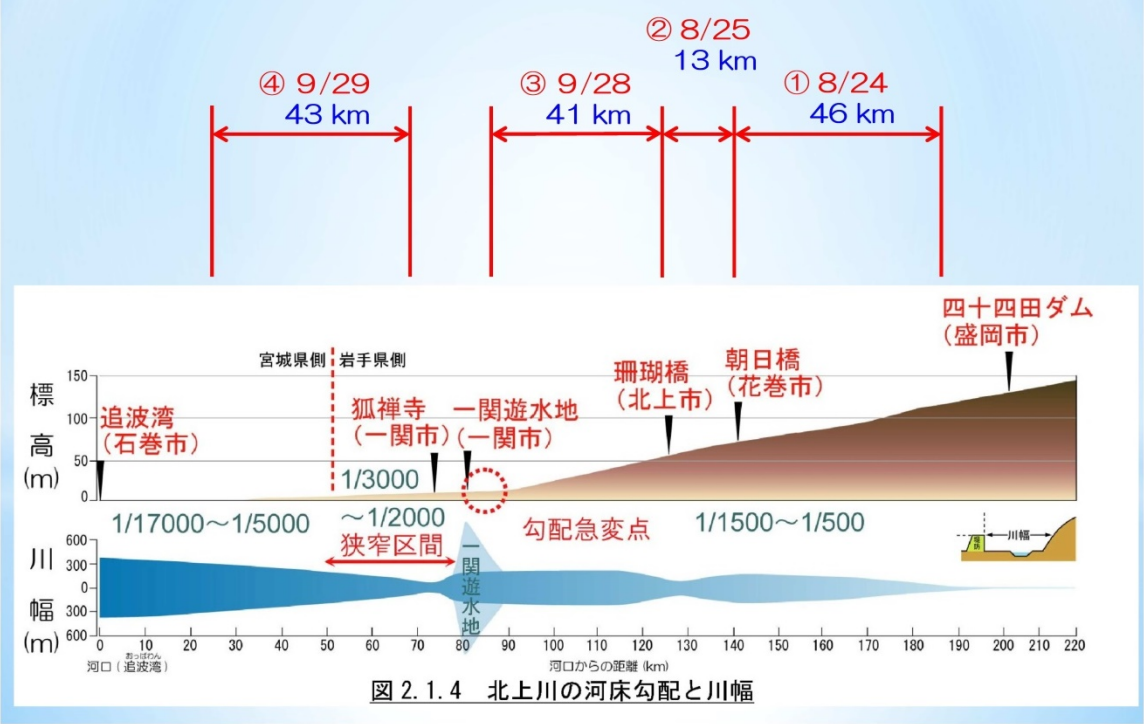


図 2.1.4　北上川の河床勾配と川幅

図２　川下り調査区間（河床勾配と川幅）

（３）機材

調査の機材については、国土交通省岩手河川国道事務所所有の６人乗り船外機付ゴムボート３艇を使用し、救命用具については各団体のものを借用した。ボートの運搬及び上げ下ろしは国土交通省岩手河川国道事務所の支援を受けた。

また、川崎防災センター下流（一関市⇒石巻市）の運航については、北上川サポート協会が所有する 12 人乗り和船と６人乗りゴムボート２艇に分乗して実施した。


【写真１】使用したゴムボート(8/24･25、9/28)


【写真２】 使用した和船とゴムボート（9/29 川崎～桃生） ※ 桃生船着場到着時

（４）行程

① ８月 24 日(土)～８月 25 日(日)

８月 24 日(土)は、盛岡の南大橋下流から花巻南大橋下流までの約 46km 区間を下った。

出発地点は、当初盛岡駅前の旭橋上流としていたが、事前調査（8/1）の時点では、水量が少なく、操船が難しい所があったため、安全性を考慮し、出発地点を南大橋下流に変更した。

当日は、天候もよく、また、実施日の数日前に降雨があったことから、比較的水量が多く、支障なく川を下ることができた。

翌日の８月 25 日(日)は、花巻南大橋下流の広大な河原をフィールドライフクラブの案内により散策した。その後、前日到着地点から北上展勝地までの約 13km 区間を下った。コースは穏やかで、予定どおり到着した。

（１） ８月 24 日（土） 盛岡（南大橋下流）⇒ 花巻（花巻南大橋下流） 46 km

コース１

9:00	出発式	① 南大橋下流 右岸	
9:30	出 発	同上	(0 km)
	→ 都南中央橋 → 徳田橋 → 長徳橋 →		
11:30	到 着	② 紫波橋：紫波町運動公園そば	(17 km)

昼 食

コース２

12:30	出 発	③ 紫波橋：紫波町運動公園そば	(17 km)
	→ 紫波南大橋 → 大正橋 → 石鳥谷大橋 → 井戸向橋 → 東雲橋 →花巻大橋		
	→ 北上川橋 → 釜石線北上川橋梁 → 銀河大橋 → 朝日橋 → 朝日大橋 → 銀河南大橋 →		
16:00	到 着	④ 花巻南大橋下流 右岸	(46 km)

意見交換会❶ 17:00 マルカンビル大食堂（花巻市上町 6-2）

（２） ８月 25 日（日） 花巻（花巻南大橋下流）⇒ 北上（展勝地レストハウス前） 13 km

コース３

9:00	フィールド散策（花巻南大橋下流 右岸）		
10:00	出 発	① 花巻南大橋下流 右岸	(0 km)
	→ 昭和橋 → 東北新幹線第３北上川橋梁 → 北上中央橋 → 日高見橋 →		
12:00	到 着	② 珊瑚橋下流 左岸(展勝地レストハウス前)	(13 km)

昼 食

意見交換会❷ 12:30～13:30

※ コース下見：８月１日(木)にコース１、２を中心に３名１艇で実施（旭橋～花巻南大橋）



【写真３】 川下り調査の様子



【写真４】 到着地点(展勝地)

② ９月 28 日(土)～９月 29 日(日)

９月 28 日(土)は、前回の終点であった北上展勝地（珊瑚橋下流 左岸）から、平泉船着場（高館橋下流 右岸）までの約 41km 区間を下った。

９月 10 日(火)に事前調査を行い、コースの安全を確認していたが、その後も雨がなく、当日はさらに水位が低い状況となり、ボートを下りて押した箇所も何箇所かあった。

また、翌日の９月 29 日（日）は、北上市立博物館主催の「探訪会『川から海へ！』」に参加する形で、一関市川崎町（北上大橋上流）から石巻市桃生町（脇谷閘門下流）まで下った。

これまでの北上川サポート協会の調査により、登米の下流区間は「ゆはず」の航行は難しいとの報告を受けていたが、当日はさらに流量の低下が見られ、「ゆはず」の運航を諦め、川崎防災センター・艇庫から脇谷閘門まで６人乗りゴムボート２艇と 12 名乗り和船で下った。

（３） ９月 28 日（土）　北上市展勝地（珊瑚橋下流 左岸）⇒ 平泉船着場（高館橋下流 右岸）

コース４

9:00	出発式	① 展勝地レストハウス 駐車場
9:30	出　発	同上（左岸）　（ 0 km）
	→ 国見橋 → 江崎大橋 → 金ケ崎橋 → 桜木橋 → 四丑橋 → 小谷木橋 →	
12:30	到　着	② 藤橋 右岸：道の駅「みずさわ」そば（25 km）

昼　食

意見交換会❸ 12:45～13:15　水沢地区水辺プラザ「学習交流館」（藤橋上流右岸）

コース５

13:30	出　発	③ 藤橋 右岸：道の駅「みずさわ」そば（25 km）
	→ 大曲橋 → 赤生津橋 → 箱石橋 → 白鳥舘遺跡（水制工 35 km）→ 高館橋 →	
16:00	到　着	④ 平泉船着場（高館橋下流 右岸）　（41 km）

交流懇親会　17:00　一ノ関駅前「居酒屋 呼呼」（一関市上大槻街２-34）

（４） ９月 29 日（日）　一関市川崎町（北上大橋上流）⇒ 石巻市桃生町（脇谷閘門下流）

※北上市立博物館主催の「探訪会『川から海へ！』」に参加

8:30	集合（みちのく民俗村 南側駐車場）	
10:00	出　発	① 北上大橋上流 左岸（川崎防災センター）
	→ 北上川橋 → 花藤橋 → 錦桜橋 → 米谷大橋 → 登米大橋 → 脇谷閘門 →	
12:30	到　着	② 桃生船着場

※ コース下見：９月 10 日(火)にコース４、５を対象に、５名１艇で実施（展勝地～川崎）



【写真５】 川下り調査の様子



【写真６】 川崎インクライン出発

（５）参加者

① ８月 24 日(土)　盛岡（南大橋）～ 花巻（花巻南大橋）

■ 操船　■ ﾚｽｷｭｰ

No	艇	氏　名	団　体　名　等	ｺｰｽ１	ｺｰｽ２	意見交換会
1	1	白畑　誠一	北上川フィールドライフクラブ	○	○	○
2	1	菊池　拓巳	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○	○
3	1	下向　　均	北上川に舟っこを運航する盛岡の会	○	○	○
4	1	阿部　春美	北上川に舟っこを運航する盛岡の会	○	○	○
5	1	齋藤　茂則	東北地方整備局河川環境課長	○	○	○
6	2	小山　隆春	NPO法人北上川流域連携交流会	○	○	○
7	2	米澤　　充	北上川フィールドライフクラブ	○	○	○
8	2	古舘　雅晴	川を知る会		○	○
9	2	大久保 嘉二	ＮＨＫ盛岡放送局長	○		－
10	2	幸野　聖一	岩手県県土整備部河川課 総括課長	○	○	○
11	2	斉藤　喜浩	北上川ダム統合管理事務所長	○	○	○
12	3	佐井　　守	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○	－
13	3	内田　尚宏	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○	○
14	3	渋谷　洋祐	北上市立博物館 館長補佐		○	○
15	3	高橋　和孝	奥州市立博物館 学芸員		○	－
16	3	髙濱　康亘	盛岡市都市整備部長	○		－
17	3	髙濱 あす菜	盛岡市在住	○		－
18	3	佐近　裕之	岩手河川国道事務所長	○	○	○
19	陸	平山　健一	北上川「流域圏」フォーラム 実行委員長	○	○	○
20	陸	中村　　巌	北上川「流域圏」フォーラム 運営委員長	○	○	○
21	陸	和賀　匡彦	北上川「流域圏」フォーラム 事務局	○	○	○
22		新井　高広	NPO法人ひたかみ水の里			○
23		上田　東一	花巻市 市長			○
24		藤原　忠雅	花巻市 副市長			○
25		川口　摩弓	花巻市東和総合支所　地域おこし協力隊			○
26		佐藤　克英	東北地方整備局長			○
27		長田　　仁	東北地方整備局河川部 河川調査官			○
合　計			（　順不同　　敬称略　）	18	18	22

② ８月 25 日(日)　花巻（花巻南大橋）～ 北上（展勝地レストハウス）

■ 操船　■ ﾚｽｷｭｰ

No	艇	氏　名	団　体　名　等	ｺｰｽ３	意見交換会
1	1	白畑　誠一	北上川フィールドライフクラブ	○	○
2	1	菊池　拓巳	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○
3	1	下向　　均	北上川に舟っこを運航する盛岡の会	○	○
4	1	阿部　春美	北上川に舟っこを運航する盛岡の会	○	○
5	1	齋藤　茂則	東北地方整備局河川環境課長	○	○
6	2	小山　隆春	NPO法人北上川流域連携交流会	○	○
7	2	新井　高広	NPO法人ひたかみ水の里	○	○
8	2	村木　宏彰	岩手県県土整備部河川課 主任	○	○
9	2	大菅　貴広	北上川ダム統合管理事務所 調査課長	○	○
10	3	米澤　　充	北上川フィールドライフクラブ	○	○
11	3	内田　尚宏	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○
12	3	渋谷　洋祐	北上市立博物館 館長補佐	○	○
13	3	川口　高雄	岩手河川国道事務所 水沢出張所長	○	○
14	3	佐藤　弘伸	㈱展勝地　みちのく民俗村管理運営事業部	○	○
15	陸	平山　健一	北上川「流域圏」フォーラム 実行委員長	○	○
16	陸	中村　　巌	北上川「流域圏」フォーラム 運営委員長	○	○
17	陸	和賀　匡彦	北上川「流域圏」フォーラム 事務局	○	○
合　計			（　順不同　　敬称略　）	17	17

③ ９月 28 日(土)　北上（展勝地レストハウス）～ 平泉（高館橋）

■ 操船　■ ﾚｽｷｭｰ

No	艇	氏　名	団　体　名　等	ｺｰｽ４	ｺｰｽ５	意見交換会	懇親会
1	1	小山　隆春	NPO法人北上川流域連携交流会	○	○	○	○
2	1	菊池　拓巳	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○	○	○
3	1	佐々木　進	奥州カヌー愛好会 事務局長	○	○	○	－
4	1	佐藤　佳之	岩手県県土整備部河川課 主査	○	○	○	○
5	1	外山　久典	北上川下流河川事務所 副所長	○	○	○	○
6	2	米澤　　充	北上川フィールドライフクラブ 事務局長	○	○	○	○
7	2	新井　高広	NPO法人ひたかみ水の里	○	○	○	○
8	2	下向　　均	北上川に舟っこを運航する盛岡の会	○	○	○	○
9	2	浅利　祐輔	水沢青年会議所 副理事長	○		○	－
10	2	斉藤　喜浩	北上川ダム統合管理事務所 所長	○	○	○	－
11	3	佐井　　守	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○	○	－
12	3	内田　尚宏	一社）いわて流域ネットワーキング	○	○	○	○
13	3	及川　和志	県南広域振興局保健福祉環境部 主査	○	○	○	○
14	3	八重樫博紀	薬師堂温泉 支配人	○		○	－
15	3	佐近　裕之	岩手河川国道事務所 所長		○	○	○
16	3	齋藤　茂則	東北地方整備局 河川環境課長	○	○	○	○
17	陸	平山　健一	北上川「流域圏」フォーラム 実行委員長	○	○	○	○
18	陸	中村　　巖	北上川「流域圏」フォーラム 運営委員長	○	○	○	○
19	陸	和賀　匡彦	北上川「流域圏」フォーラム 事務局	○	○	○	○
20	陸	川口　高雄	岩手河川国道事務所 水沢出張所長			○	－
21		高野　　聡	奥州市総務企画部 政策企画課長			○	－
22		金野　和則	NPO法人北上川サポート協会 事務局長				○
23		菅原　幸子	NPO法人北上川サポート協会 事務局				○
24		二瓶　昭弘	一関市建設部 部長				○
25		佐藤　伸吾	北上川下流河川事務所 所長				○
合　計			（　順不同　　敬称略　）	18	17	21	18

④ ９月 29 日(日)　一関（川崎防災ステーション）～ 石巻（脇谷閘門下流）

No	艇	氏　名	団　体　名　等	参加
1	1	米澤　　充	北上川フィールドライフクラブ 事務局長	○
2	2	新井　高広	NPO法人ひたかみ水の里	○
3	陸	平山　健一	北上川「流域圏」フォーラム 実行委員長	○
4	陸	中村　　巖	北上川「流域圏」フォーラム 運営委員長	○
5	陸	小山　隆春	北上川「流域圏」フォーラム 事務局	○
合　計			（　順不同　　敬称略　）	5

※ 北上市立博物館主催の「探訪会『川から海へ！』」と連携して実施

３．実施状況

（１）主な通過箇所

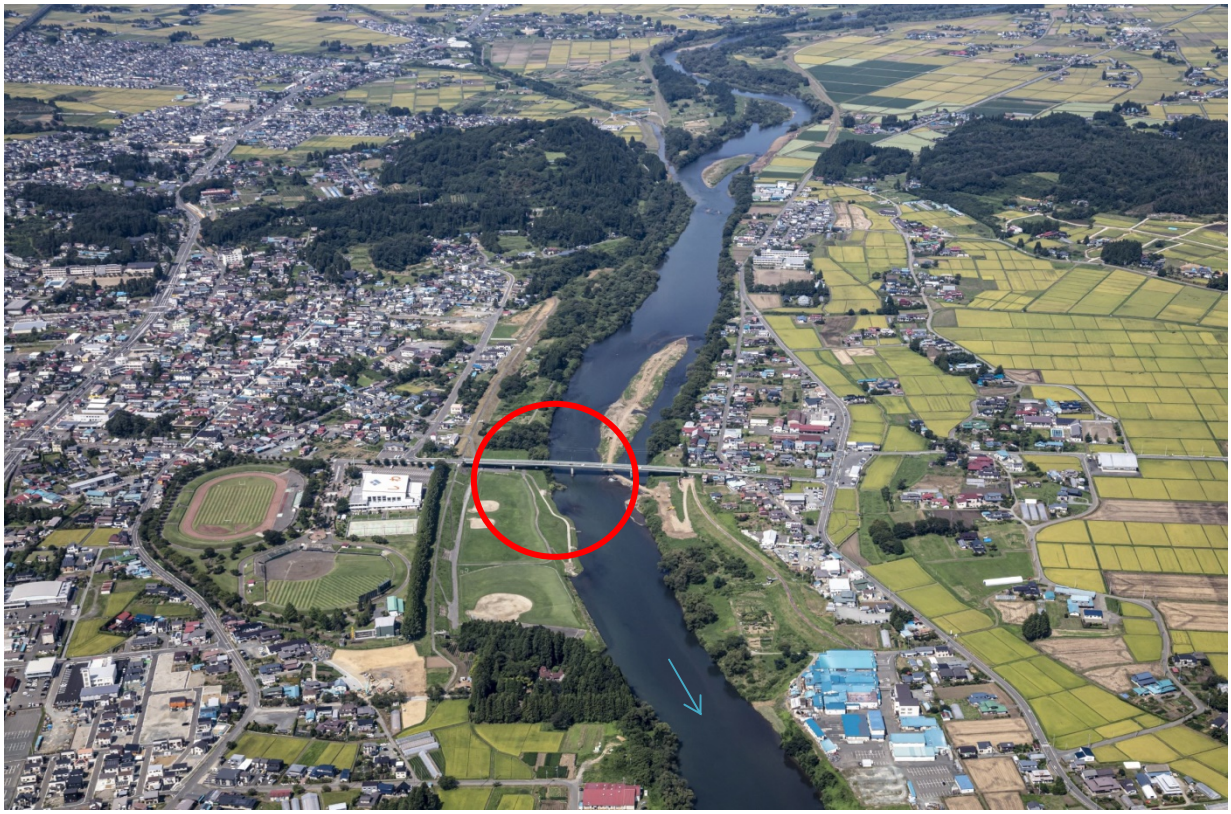
※ 航空写真は岩手河川国道事務所及び北上川下流河川事務所より提供

① ８月 24 日(土) 出発地点（南大橋下流：右岸）

※ 盛岡市街(開運橋：木伏緑地)から４km、石巻市街(西内海橋：いしのまき元気いちば)から 190km



② ８月 24 日(土) 昼食場所(紫波橋下流:右岸)　※ 盛岡市街から 21km、石巻市街から 173km



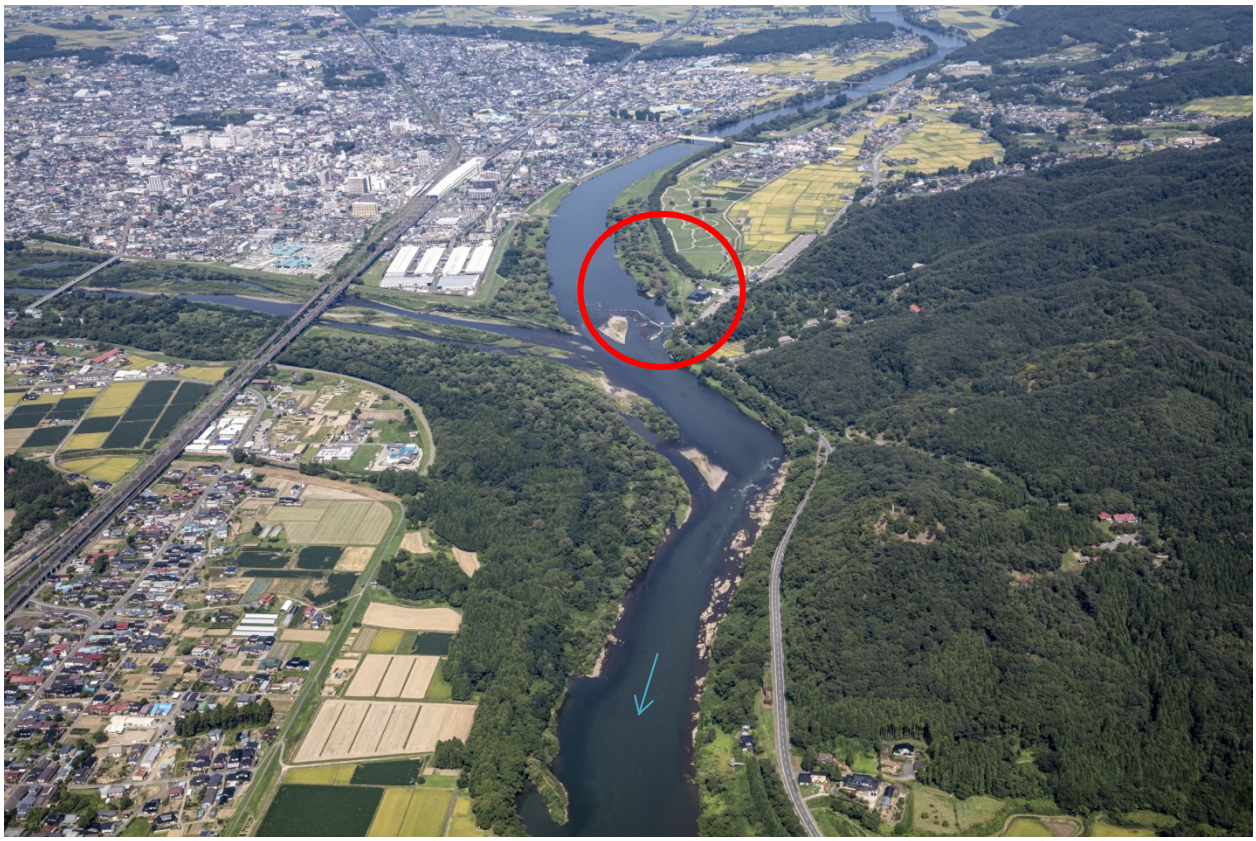
③ ８月 24 日(土) 到着地点、８月 25 日(日) 出発地点（花巻南大橋下流：右岸）

※ 盛岡市街から 50km、石巻市街から 144km



④ ８月 25 日(日) 到着地点、９月 28 日(土) 出発地点（展勝地レストハウス：左岸）

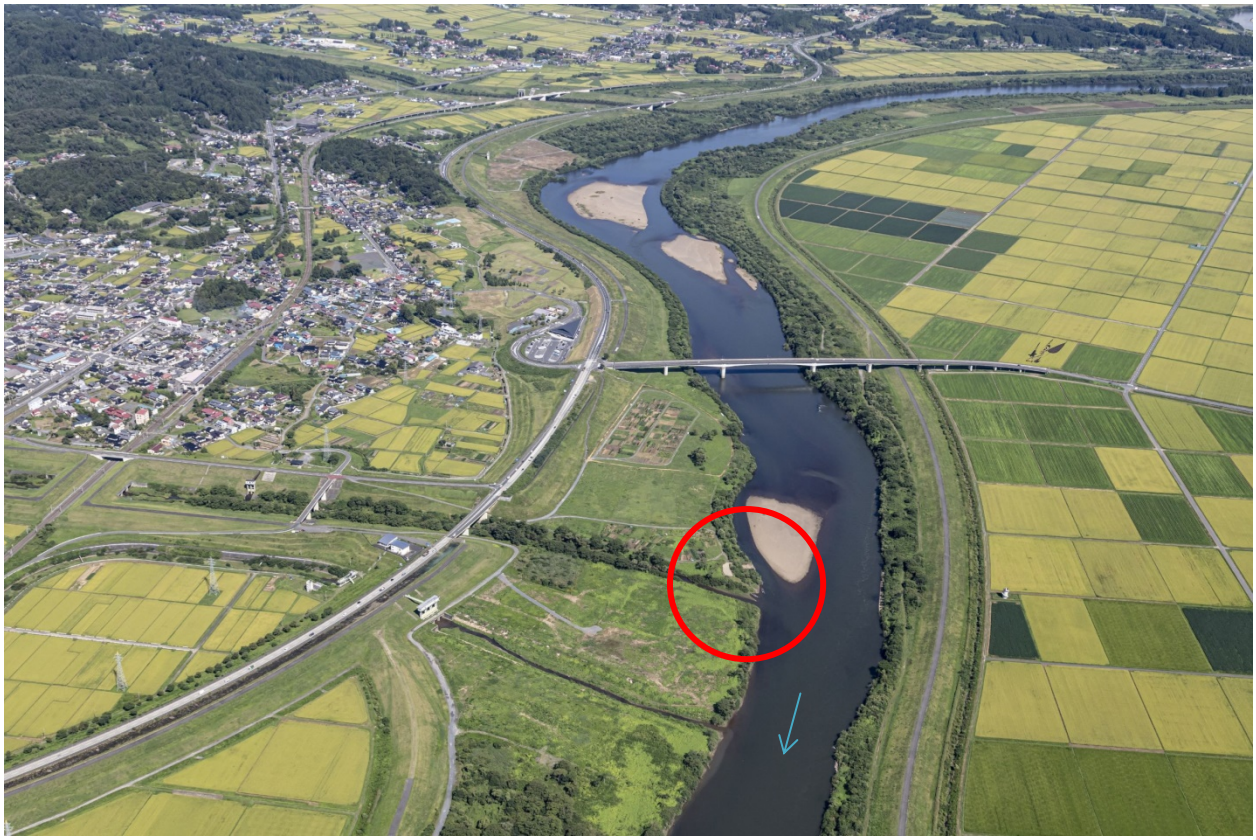
※ 盛岡市街から 63km、石巻市街から 131km



⑤ ９月 28 日（土） 昼食場所（藤橋そば：右岸）　※ 盛岡市街から 87km、石巻市街から 107km



⑥ ９月 28 日（土） 到着地点（高館橋下流：右岸）　※ 盛岡市街から 103km、石巻市街から 91km

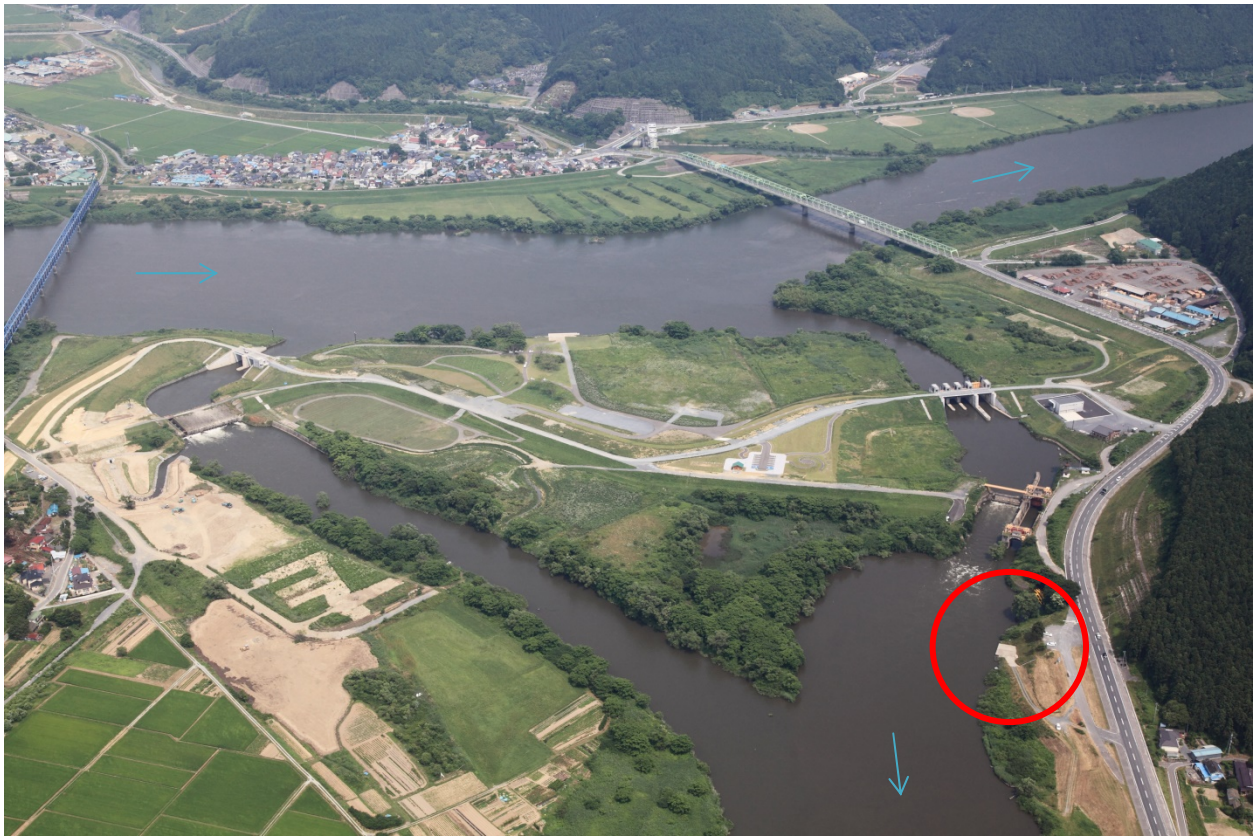


⑦ ９月 29 日(日) 出発地点（北上川大橋上流：左岸）

※ 盛岡市街から 121km、石巻市街から 73km



⑧ ９月 29 日(日) 到着地点(脇谷閘門下流:左岸)　※ 盛岡市街から 162km、石巻市街から 32km



（２）実施状況写真

① ８月 24 日(土)　盛岡（南大橋）～ 花巻（花巻南大橋）



出発式



調査の様子



昼食時の到着（紫波橋下流）



特殊な地形（左岸）



川談義



佐藤局長からのエール



到着時（花巻南大橋下流）



機材の搬送体制

② ８月 25 日(日)　花巻（花巻南大橋）～ 北上（展勝地レストハウス）



フィールド散策（花巻南大橋川原）



川下りの様子



カワウの群れ



調査の様子



エンジンを止めて説明



説明を聞く参加者



繁茂するアレチウリ



展勝地に到着

③ ９月 28 日(土)　北上（展勝地レストハウス）～ 平泉（高館橋）



出発式（レストハウス駐車場）



展勝地から出発



意見交換会場（水辺プラザ）



昼食しながらの意見交換



カワウのねぐら下（糞で白くなった樹木）



しばし休憩



浅瀬での操船



平泉船着場に到着

④ ９月 29 日(日)　一関（川崎防災ステーション）～ 石巻（脇谷閘門下流）



出発式



乗船の様子



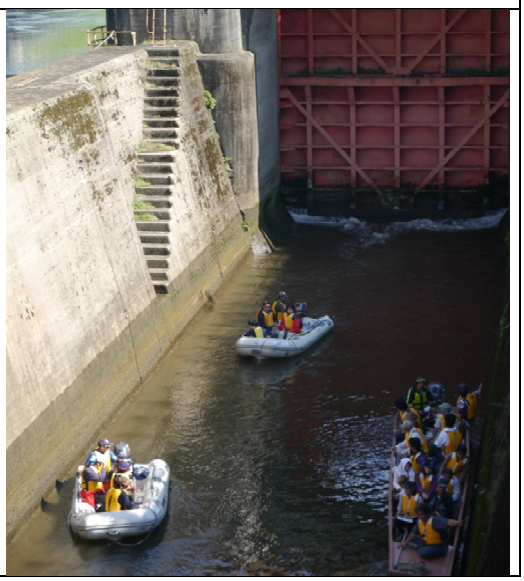
和船の運行



川原で休憩



脇谷閘門上流側ゲートの操作



※ 北上市立博物館主催の「探訪会『川から海へ！』」



8/24(土) 全体写真（紫波橋）



9/28(土) 全体写真（平泉船着場）

４．意見交換の内容

意見交換会は３回、交流懇親会は１回実施した。

以下に参加者の感想・意見などを列挙し、また初めて川下り体験をした北上市の佐藤弘伸さんの感想を掲載した。

参加者からは川下りの新鮮な印象や来年度に向けた検討課題等が出され、有益な官民の交流の機会となった。

（１）８月実施分の意見・感想など

８月 24 日（土） ❶ 意見交換会　17:00～　　花巻市 マルカンビル大食堂

８月 25 日（日） ❷ 意見交換会　12:30～13:30　北上市 展勝地レストハウス

○ 来年の交流事業実施の際は、一般の方が乗船できるようになれば良い

○ 川は生きていると実感した。より多くの方に川を知ってほしいと感じた。

○ 舟を運航することばかりに気がいっており、川のことや周辺の自然、歴史や文化など包括的に考えることが大事だと気付いた。

○ 百聞は一見に如かず。本などを見て川のことなどを学習していたつもりだったが、実際に乗って動くことによって、より多くのことに気づかされた。一緒に乗船された方々が、それぞれ持ち合わせた知識を共有することが出来て、植物、川魚、地質、歴史などすべてが繋がっていることに気づき、大変有意義だった。

○ 貴重な体験をさせてもらった。早速フェイスブックに UP したが、非常に感触がいい。乗ってみたいとか、どうすれば川で遊べるのかなどの声が寄せられている。

○ 乗船していてガイドが必要と感じた。

○ 学ぶ、体験する、プラスして「食べる」を付け加えたい。郷土食など。

○ 船頭(オペレータ)の操船が素晴らしかった。安全運航第一という姿勢が見えた。

○ 川の達人と呼ばれている人たちが感動しているのがうれしかった。それぞれのフィールドを離れて盛岡から北上までの長い距離の運航だったので、新鮮に感じたものと思う。

○ また、多様な人たちが参加したことによって、それぞれの見方が違ったり共感できたりすることで、改めて川を見つめる機会になった。



【写真７】意見交換会
(8/24)



【写真８】意見交換会
(8/25)

（２）９月実施分の意見・感想など

９月 28 日（土）❸ 意見交換会　12:45～13:15　水沢地区水辺プラザ学習交流館

❹ 交流懇親会　17:00～　　一ノ関駅前「居酒屋 呼呼」

○ 水量不足で６人乗りゴムボートでの航行に支障をきたした。

○ 中流部（北上、水沢、一関）の航行は、川の流れ、景観に変化が少ない。

○ 川下りは、川や地域を紹介する機会として適当である。

○ 長時間のため、「間」を埋める工夫が必要。ガイドさんがいれば良い。

○ 一関遊水地船着き場は１ｍ程度、河床が低下しており、現状での船着き場の利用は困難であった。河床の変化の把握と共に河床の維持（航路の維持）に気を配る必要がある。

○ 白鳥館跡を初めて訪問した。右岸に入っている護岸は水当たりを和らげ、右岸を洗掘から防護している。

○ 川へのアクセスは水量によって異なるが、アクセス可能な箇所の現状、整備の状況、陸上道路への連絡等のまとめと公開が必要である。また、水辺プラザ、アクセス箇所を増加・充実し、利用者の便をもう少し配慮して欲しい。

○「河川の舟下り」は観光資源として十分生かせるのでは。

○ 似たような景色が多いため、自分の位置を知る橋名表示や距離標があると良い。

○ 流域の繋がりを感じられる工夫があれば良いのではないか。上流で行われている清流化の取組、河口の漂着ゴミ等の問題等も題材にし、学習の場として打ち出すことも考えられる。

○ 急流箇所が少なく、川を下ることに対してのスリルはあまりない。一方でかつての舟運の遺構等が点在していることから、ガイドなどの解説があれば楽しめるのではないか。

○ 途中で陸に上がれる箇所が少なく、トイレの確保等も踏まえた時間・ルート設定が必要。

○ 川から見る川は新鮮。川の近くにいたのに見たことがなかった。

○ 川下りは人づくりのプログラムになっている。

○ 河口清掃の交流は意義深いと思う。



【写真９】 意見交換会の様子



【写真 10】意見交換会の様子

（３）乗船レポート

ゴムボート3艇による川下り調査へ乗船レポート

㈱展勝地　民俗村管理運営事業部　佐藤弘伸

令和元年８月 25 日（日）の朝、急遽定員に欠員があり乗船できることを受け、希望を申出て会社より許可を得ましたので、ウキウキしながら花巻南大橋下流の船着き場に向かいました。

乗船場についた時、皆さんの川下りへの情熱を感じ、小生もライフジャケットを装着し、まさに地にもつかない心で最初の手伝いゴムボートを押し出して乗り込みました。いよいよ船外機に音が走りスピードアップと思いきやトロトロと進み始めました。

３艇のゴムボートは同じ間を置きながら前のボートの軌跡を進むことにまず感銘しました。流れがあるにもかかわらず同じ岩の間を潜り抜ける。これはその先も同様に乱れることなく行われ、安全確保の徹底であると感じました。

まずは川岸に沿って制水堤や木杭が要所々施されていることが驚きでした。昔から水の力を人間が操作しているかのように見えましたが、水の力はそれ以上のものであると知らされた場所がありました。成田付近だと思われますが、中洲みたいなところで昔は淀みがあって冬には網漁をして川魚を食していたとの説明でしたが、その場所は７年前に矢巾の山沿いに記録的大雨が降った時に６時間くらいで大きく様子を変えたそうです。それが目の前の光景でした。ソフトボールよりわずかに大きい玉石だけが山積みに溜まり、それが重機で整地をしたかのように平になっていて水の力とその自然の芸術さに感動しました。これも船頭さんの説明や同伴された方たちの知識や経験の話を同時に聞くことが出来たからこそ自然の力と動きを想像できたことでした。

他にも、猿ヶ石発電所の排水路が更木の山の下をくぐり直接北上川に放水されていることも初めて知りましたし、その水も途中用水として使われているのではないかと憶測の域に感じました。護岸際に山からの沢水が流れ込んでいるところは水を飲みたくなるような新鮮さがありました。

川下りの川は淀みでも大きな岩や流木が沈んでおり、船外機も意外なところでぶつかる音がしました。また、岩場では白波が立ち、船底があたるのではと不安を感じながらも、変な期待を裏切りました。さすがの一言に尽きました。そう思いながらも今回は適当な水量であったと聞きましたし、少なくても多くても危険は増えることで本当に良いタイミングだったと喜びました。

途中々にあった船越し場での歴史的話なども聞くことが出来て、いい機会に参加できたことを感謝いたします。また、この先北上川の航路の検証や歴史を組み合わせた川下りも聞きますが、是非勉強参加をしたいと感じました。

ちなみに小生の祖母は春の船越しで流され亡くなりました。雪解けの大水にお客さんを迎えに行く時に、操作を誤ったのだろうと思います。そんなことがあったからかもしれませんが、今でも川が怖いのです。そんな川に興味を覚えました。

川際には歴史が刻まれており、陸から見る川にはわかりませんが「陸から見る川」と「川から見る川」は全く違います。川から見る川には丘で見える余計なものが見えません。素直な自然があり、人や自然が戦った痕跡が見えます。川を下る自分の姿を思うと雄大に流れる川や小刻みに流れる白波のたつ川が好きになりました。いろいろな方達と勉強しながらの自然を満喫した有意義な２時間でした。

５．調査を終えて（事務局のまとめ）

（１）流況

今回の盛岡～一関間の調査では、水深が浅く操船が難しい箇所や水量が不足してボートを下りて下った箇所があった。

また、登米より下流区間では水深が得られず「ゆはず」の運航を諦めて和船（12 名乗り）と６人乗りゴムボートで下ることになった。

流況によって川下りの舟を変更することは当然であるが、現在の北上川の流況を見ると上流部における舟運利用は制限が大きいように感じられる。

比較的流量が多かった 2014 年の盛岡館坂橋観測所の流況図を図３に示す。10 人乗りの和船が航行可能な流量は 50m3/s 以上とされるが、平均流量がほぼ 50m3/s であり舟運が可能な日数は年間の半分以下に限られることが理解できる。

このため、確実な航行のために、四十四田発電所の発電放流との連携も選択肢の一つとして考えられる。

北上川を航行可能な舟の種類については図４が参考となる。

河川管理用の船舶の航路維持について更なる配慮が期待される。

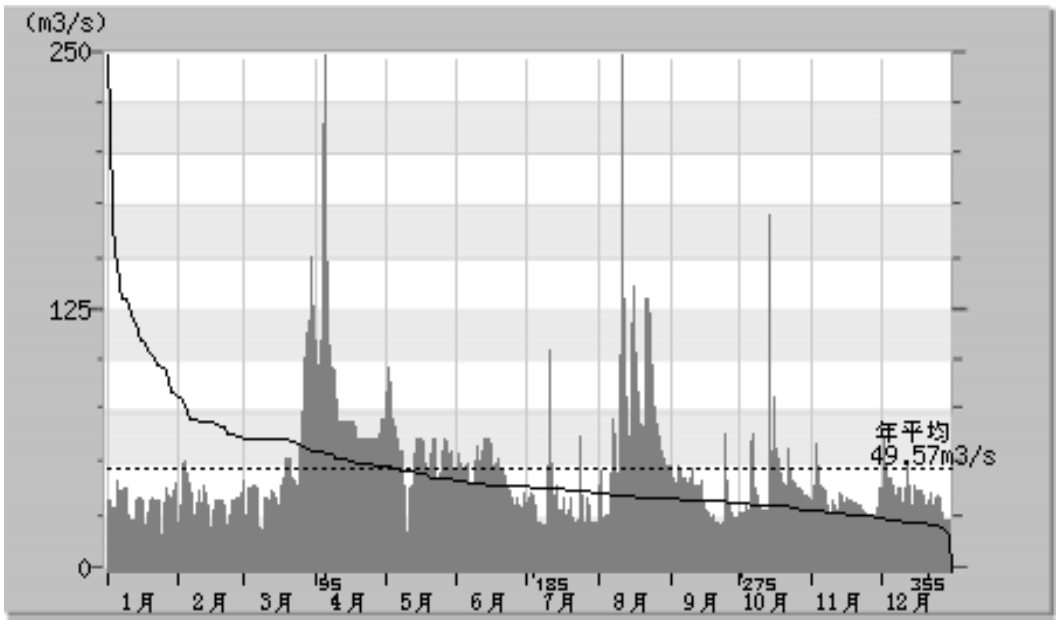


図３　盛岡館坂橋付近の流量変動

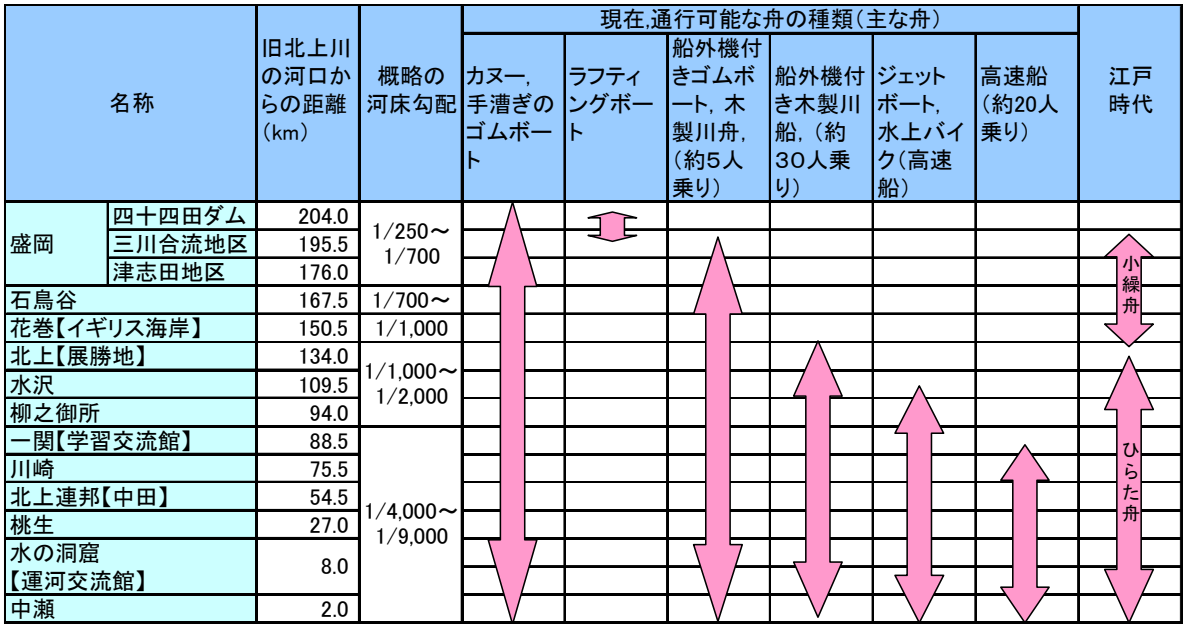


図４　北上川を航行可能な舟の種類

（２）河川環境

水辺の護岸は過度に人工的な工法を避けて、近自然的な整備がなされている。また、大きな出水がなかったせいかビニール・ゴミが以前より少ないように見受けられた。

ただし、堤外地の樹木は巨木化しており、堤外地の陸地化が進んでいるようである。

また､アレチウリ､セイタカアワダチソウ等の外来種の繁茂は以前と変わらず盛んであった。

サギ類等の水鳥の数が以前に比べて増加しているように感じた。特に、北上川でも空を覆うカワウの大群が見られ、フン害や魚の補食被害等への影響が懸念される。

水沢および平泉の「水辺プラザ」は砂州の発達のため接近が困難であり、特に平泉の係船護岸の高さと水面差も大きく、利用が困難であった。狭窄部において河床の浚渫工事が行われていたが、折角整備した「水辺プラザ」の維持管理が不十分の印象を受けた。

（３）川へのアクセス

道路から水辺プラザや船着き場へのアクセスのための誘導標識や案内版は殆ど見られなかった。また、地域の地形図においても川へのアクセス可能箇所の記入が薦められる。

北上川の川下りにおける危険箇所については、北上川「流域圏」フォーラム実行委員会のホームページに委員会が把握する箇所を記載してある。

川下りの安全については、自らの責任で十分留意して実施することが原則である。

（４）流域社会の川への関心

今回の参加者からは川の素晴らしさ、川への高い関心等の意見が多数出され、また、川と接する機会の提供に対する大きな期待や要望が寄せられたが、このような啓発活動の機会は極めて少ないことを実感し、次年度以降の「川でつなぐ交流促進事業」の推進について勇気づけられた。

水辺における子ども達との川の遊び、環境教育の推進と共に、多くの皆さんに舟から見る街並みや川の魅力の体験する機会の必要性を強く感じた。

花巻市の意見交換会では上田花巻市長にも参加していただき、川の活動の意義と重要性を理解していただいたことは有意義であった。

（５）河川関係の市民団体の強化

今年度の川下り調査については、北上川の活動団体、行政の支援を得て実施できた。今後の事業の継続発展を考えると機材の手当や活動資金の獲得も必要とされるが、人材の育成強化がもっとも難しく、志ある若い人材の育成に取り組んでいく必要を強く感じている。

６．次年度以降の事業実施に向けた具体的な課題

意見交換会での意見を参考としながら、今年度実施した状況を踏まえ、来年度以降の事業実施に向けた具体的な課題を以下のように整理した。

① 実施時期

河川水位は時期、降雨の有無により大きく変動、時期は７月～９月ぐらい

② 内容

川下り体験による魅力再発見、川仲間の拡大

③ コース

対象者を考慮したもの、長い時間ではなく地域毎でも十分、市町村を跨いだコース

④ 対象者

一般の人、子供、親子、幅広い年齢層を対象

⑤ 体験内容

自然体験、郷土食、地域の観光との連携

⑥ 船の種類の選定

時期、流況、実施場所（上・中・下流）により選定

⑦ 支援スタッフの依頼

操縦者、レスキュー、陸上での支援

⑧ ガイドの育成

水鳥、植生、歴史、河川構造物など幅広い知識

⑨ 実施支援体制

機材運搬、休憩箇所、緊急時の対応

⑩ 地域の主体性の喚起

地元自治体、地域の活動団体、新たなメンバー

⑪ 上下流の連携の具体化

意見交換、懇親会

⑫ その他

７．終わりに

北上川では例年 1000 艇以上が参加して行われる「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」が有名であるが､北上川の流れは四十四田ダムから河口まで 200 ㎞途切れることなくつながっている。

200㎞の川下りが可能な北上川からどんな夢が生まれるか楽しみである。

北上川の自然との調和を大切にしながら、急がず歩を進めていきたいと願っており、皆さんの参画を楽しみに待っています。

■ 実行委員会規約

「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会規約

（名　称）

第１条　本会は、「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会（以下「実行委員会」）と称する。

（目　的）

第２条　実行委員会は「北上川『流域圏』フォーラム」を成功裡に実施し、その成果を実現するために流域圏マネジメント構想の試行を推進することを目的とする。

（事　業）

第３条　実行委員会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（１）基調講演、活動事例発表、パネルディスカッション、新たな形の提案、北上川宣言の企画運営

（２）流域交流調査の企画運営

（３）北上川視察船の企画実施

（４）北上川流域内の河川関係活動情報の収集・発信

（５）北上川「流域圏」推進交流会議（仮称）の開催

（６）その他「流域圏」推進に関わる取組の検討

（７）その他大会の企画運営に関わる事項

（委　員）

第４条　委員は関係河川管理者、地方公共団体、NPO 及び河川をフィールドとして活動し、当大会に参加する諸団体ならびに流域貢献をすすめる企業、関連団体等をもって組織する。

（１）実行委員長を置く。実行委員長は平山健一をあてる。

（２）副実行委員長を置く。副実行委員長は軽石昇、武山文衛及び軍司俊道をあてる。実行委員長に事故ある時は、副実行委員長がその職務を代行する。

（３）実行委員会に監事を置く。監事は実行委員長が指名する。

（４）実行委員会に運営委員を置く。運営委員長及び副運営委員長は実行委員長が指名する。

（５）実行委員会に事務局を置く。事務局長は実行委員長が指名する。

（監　事）

第５条　実行委員会に監事を置き、会計処理を監査する。

（委員会）

第６条　実行委員長は、実行委員会を招集し、その議長となる。

（１）実行委員会は次の事項を審議決定する。

①　事業計画や予算・決算に関すること。

②　その他重要な事項に関すること。

（２）実行委員会の議事は、出席者の過半数により決する。同数の時は議長がこれを決する。

（運営委員会）

第７条　運営委員会は下記の事項を協議・執行する。

（１）実行委員会に付議すべき事項。

（２）実行委員会の議決を要しない会務の執行に関する事項。

（３）実行委員会で決議した事項の執行に関する事項。

（４）その他実行委員会で必要と認めた事項。

（事務局）

第８条　実行委員会事務局は、「(株)展勝地内」に置く。

（会　計）

第９条　実行委員会の経費は次をもってあてる。

（１）参加費

（２）助成金

（３）寄付金、その他の収入

２．実行委員会の会計は、毎年４月１日～３月 31 日までを１会計年度とする。

（解　散）

第 10 条　実行委員会は、本会の目的を達成もしくは中止する事を決議した場合に解散する。

（雑　則）

第 11 条　この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が実行委員会に諮って定める。

附　則

１．本規約は、平成 27 年７月１日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

２．本規約は、平成 28 年４月 27 日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

■ 実行委員会名簿

実行委員

	氏 名	団 体 名	役 職
委員長	平山 健一	北上川リバーカルチャーアソシエーション	会 長
副委員長	軽石 昇	ガイア展勝の会	会 長
副委員長	武山 文衛	NPO法人りあすの森	顧 問
副委員長	軍司 俊道	NPO法人北上川流域連携交流会	代表理事
委 員	白石 定利	水と緑の環境フォーラム・ものう	会 長
委 員	柏 眞喜子	をんな川会議	事務局長
委 員	白畑 誠一	北上川フィールドライフクラブ	代 表
委 員	内田 尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	代表理事
委 員	古舘 雅晴	川を知る会	事務局長
委 員	村井 軍一	北上川に舟っこを運航する盛岡の会	会 長
委 員	吉田 達男	NPO法人北上川サポート協会	理事長
委 員	新井 偉夫	NPO法人ひたかみ水の里	代 表
委 員	佐近 裕之	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	所 長
委 員	佐藤 伸吾	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所	所 長
委 員	斉藤 喜浩	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所	所 長
委 員	幸野 聖一	岩手県県土整備部河川課	総括課長
委 員	大宮 敦	宮城県土木部河川課	課 長
監 査	若林 治男	宮城建設株式会社	取締役副社長

運営委員

	氏 名	団 体 名	役 職
委員長	中村 巖	NPO法人北上川流域連携交流会	
副委員長	内田 尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	代表理事
委 員	菅原 惠子	NPO法人奥州・いわてNPOネット	理事長
委 員	佐藤 富美子	特定非営利活動法人ゆう・もあ・ねっと	代 表
委 員	齋藤 一公	NPO法人北上川流域連携交流会	事務局長
委 員	塚原 俊也	くりこま高原自然学校	校 長
委 員	金野 和則	NPO法人北上川サポート協会	事務局長
委 員	石村 靖	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	課 長
委 員	八重樫 博男	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所工務第一課	建設専門官
委 員	佐々木 秀一	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	専門調査員
委 員	齊藤 勝博	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所調査課	課 長
委 員	大越 育美	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所調査課	専門員
委 員	大菅 貴広	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所調査課	課 長
委 員	野崎 弥	岩手県県土整備部河川課	河川海岸担当課長
委 員	長谷川 清人	宮城県土木部河川課	技術副参事兼 課長補佐（総括担当）
事務局長	小山 隆春	NPO法人北上川流域連携交流会	理 事
事務局	和賀 匡彦	ガイア展勝の会	
事務局	佐井 守	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	
事務局	菊池 拓巳	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	

■ 新聞掲載記事

岩手日日　　令和元年８月２６日（月）

川下り、より快適に

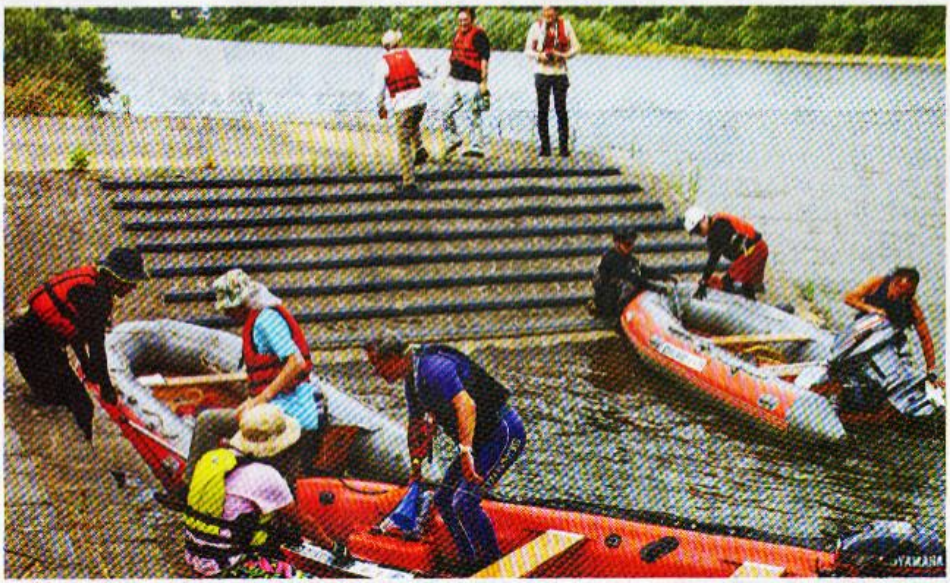
市民グループ代表者ら 実地調査で課題確認

【花巻】「川でつなぐ交流促進事業」川下り調査（北上川「流域圏」フォーラム実行委員会主催）は24、25の両日、盛岡市から北上市内の北上川で実施された。河川の利活用に取り組む市民団体が参加し、川を使ったより良い活動の在り方を探った。

水辺教育や川を生かした観光振興に尽力する市民グループ代表者ら約30人が参加し、ゴムボート3艇に分乗して活動。初日は盛岡から花巻までの46㌔区間を約5時間ほど掛けて下り、河床状態や陸地とのアクセス、顧客に川下りを楽しんでもらう場合の課題などをチェックした。

終了後は花巻市上町のマルカン大食堂に場所を移し、行政関係者を交えて意見交換会を実施。「女性でも川下りを楽しみやすいよう、休憩場所や陸路とのアクセスの良さが重要」「川からの景色を見ながら自分がどこにいるかが確認できるよう、ボートにタブレット端末などを置いてはどうか」といった意見が寄せられていた。

参加者の中には長く北上川の利活用に取り組む人も多く、イベントの在り方や児童生徒に対する水辺教育など、さまざまな視点からの発言があった。元岩手大学長で同実行委の平山健一委員長は「河床や水量だけでなく、若い世代の船頭など人材が育っているかも見直そうという調査。利水だけでなく、環境教育など（北上川流域には）いろいろな使い方がある。川に出て人を育てる活動に、北上川から入ってきてもらえるようにしたい」と話し、各団体の活動充実を願っていた。



「川でつなぐ交流促進事業」川下り調査に取り組む市民団体代表者ら

■ 北上川「川くだり支援まっぷ」

川下りの後に行われた意見交換会で、「橋の名前やトイレ等の案内がほしい。」と位置確認や利便施設の案内機能を要望する声がありました。

この意見を受けて、実行委員会が運営する「北上川流域情報」のホームページに、北上川「川くだり支援まっぷ」を掲載しています。

接岸ポイント、橋の名前、トイレ、駐車場のほか、危険ポイントを案内しています。

また、危険ポイントをクリックすると、推奨ルートを写真で見ることが出来ます。

北上川の川下りをされる方に参考にしていただければと思います。

北上川「川くだり支援まっぷ」

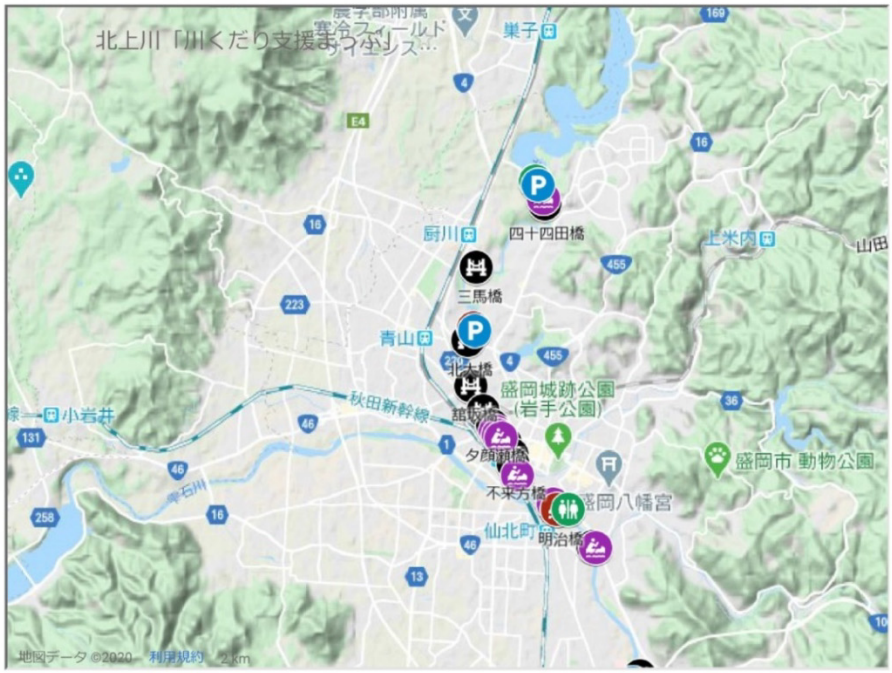
北上川を川くだりする方へ、アクセスポイントやトイレ情報の他、橋の名前など自分の位置を知るための情報を提供します。危険度の高いポイントには、お薦めコースどりも表示します。GPSをオンにしてご活用ください。

スマートフォンやタブレットで左のQRコードを読み込むと、川の上でも自分の位置を確認しながら利用できます。

ご利用は、個人の責任にてお願いします。（テスト公開）

https://drive.google.com/open?id=1l0Dsc6JDtH_m-MU6rAyey1F8N5CITb_f&usp=sharing

↓ 凡例・ポイント詳細が表示されます。



北上川流域情報のホームページ(http://www.kitakamigawa.or.jp/)からもアクセスできます。



令和元年度

「川でつなぐ交流促進事業」　報告書

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会（構成機関）

北上川リバーカルチャーアソシエーション、NPO 法人北上川流域連携交流会、ガイア展勝の会、
㈠社)いわて流域ネットワーキング、をんな川会議、川を知る会、北上川に舟っこを運航する盛岡の会、
北上川フィールドライフクラブ、NPO 法人奥州・いわてNPO ネット、NPO 法人北上川サポート協会、
水と緑の環境フォーラム・ものう、くりこま高原自然学校、NPO 法人りあすの森、NPO 法人ひたかみ水の里、
国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所・北上川下流河川事務所・北上川ダム統合管理事務所、
岩手県、宮城県

事務局：㈱展勝地　みちのく民俗村管理運営事業部

〒024-0043 岩手県北上市立花14-62-3　　TEL 0197-72-5067／FAX 0197-72-5074

E-mail:　info.river@kitakamigawa.or.jp